

「基地強靱化」に監視必要

百里基地 塩川・岩淵議員ら調査



日本共産党茨城県委員会（上野高志委員長）は2日、塩川鉄也衆院議員と岩淵友参院議員、江尻加那県議、衆院候補者や県内市町村議員など21人で、航空自衛隊百里基地（同県小美玉市）へ視察調査に入りました。

説明を受ける参加者
2日、茨城県小美玉市

岸田内閣がすすめる基地強化の実態や、住民への影響など、同基地の松浦知寛司令から事前に伝えた質問への回答を受け、再度、参加者からも質問や要望を出しました。

基地強靱（きょうじん）化の施設整備では、300～500億円の予算で、191施設が建て替えと改修の

対象になっていることを確認。同基地では、米軍B52核爆撃機との共同訓練が2020年以降10回あり、外国軍隊（豪・英・仏など）との、訓練は22年3月から4回行われてきました。他国との共同訓練について松浦司令は「周辺国の能力強化に合わせて、日本の能力も高めることが目的」と説明しました。戦闘機用の隠ぺい施設などの予定地は、バス車中からの見学となりました。

塩川氏は「B52との共同訓練で戦術技量を向上させるといふのは、自衛隊が核抑止論に立っているということ」で、「戦争国家づくりそのものだ」と批判。「今後も党や運動団体による基地監視や調査は継続的に必要」と参加者と確認しました。

「しんぶん赤旗」2024年8月3日付